

**令和4年度 指定管理者
事業評価 報告書**

(よこはま動物園、野毛山動物園・野毛山公園及び
金沢動物園・金沢自然公園)

令和5年 11月

横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会

1 評価対象

対象施設	指定管理者	指定期間
よこはま動物園	公益財団法人 横浜市緑の協会	H28.4～R8.3
野毛山動物園及び野毛山公園		
金沢動物園及び金沢自然公園		

2 評価方法

評価は、令和5年7月及び8月に調査員（環境創造局公園緑地管理課職員）と評点員（環境創造局動物園課職員）が基本協定書、事業計画書、仕様書、維持管理基本水準書、年度実施協定書及び年度実施計画書等に基づき書類の審査、ヒアリング、現地確認等を実施した結果を本委員会で審査しました。

また、指定管理者の取組姿勢について、本委員会で直接、指定管理者にヒアリングを実施し、採点を行いました。そのうえで、調査員・評点員の採点及び本委員会での採点を合わせ、評価を決定しました。

3 事業評価経過

(1) 調査員・評点員による採点（ヒアリング・現地調査含）

- よこはま動物園 : 令和5年7月31日（月）
- 野毛山動物園 : 令和5年8月2日（水）、8月3日（木）
- 金沢動物園 : 令和5年7月24日（月）、7月25日（火）
- 協会本部 : 令和5年8月4日（金）

(2) 横浜市立動物園等指定管理者選定評価委員会

- 令和5年9月19日（木）
- 調査員・評点員による採点結果検討
- 指定管理者へのヒアリング、評価審査

4 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員（敬称略）

- 委員長：小宮 輝之〔元恩賜上野動物園長〕
- 委員：佐渡友 陽一〔帝京科学大学准教授、市民ZOOネットワーク代表理事〕
- 委員：関 清美〔税理士、さくら共同会計事務所〕
- 委員：藤崎 晴彦〔横浜市立大学准教授〕
- 委員：間曾 さちこ〔株式会社かなん代表、元財団法人自然環境研究センター上席研究員〕

5 評価結果

採点点数	全体 (%)	評価
495.5 点 / 600 点	82.58%	A

【参考】評価に関する点数の考え方については、次のとおり

S評価	90%～100%（概ね 540 点～600 点）	極めて優秀（要求水準を大きく上回る）
A評価	80%～89%（概ね 480 点～539 点）	優秀（要求水準を上回る）
B評価	60%～79%（概ね 360 点～479 点）	良好（要求水準の下限を保持）
C評価	59%～（概ね 359 点以下）	不良（要求水準の下限を満たさない）

6 全体講評

令和4年度は、横浜市立動物園における指定管理者制度の第3期目、10年間の指定管理期間の7年目でした。今回の事業評価においては、コロナ禍の厳しい条件の中で優秀な取り組みが見られた一方、前年度からの改善は見られるものの戦略性が不十分な面も見られました。

3つの目標（入園者数、国際的な繁殖計画への参画・連携、学校教育プログラム改善）を掲げて業務に取り組んでいますが、令和4年度の入園者数については、前年度比98.8%とほぼ横ばいでした。コロナ禍を経て今後も市民の行動様式に変化が見られる可能性があるため、ユーザーに響く動物園の魅力を改めて分析し、集客確保のアイデアや運営の工夫を指定管理者には引き続き期待します。

国際的な繁殖計画への参画・連携についてはほぼ目標を達成しています。特によこはま動物園の国際担当係長の配置は評価に値します。この配置の有効な活用による事業進展を期待します。

学校教育プログラム改善については、改善数の目標を超えたことを評価します。

飼育管理全般については、国際キリンダーなど多くの動物で3動物園が連携して普及に尽くすだけでなく、保全団体と連携して寄附を行うなど域内保全への貢献を強化したことを評価します。しかし、よこはま動物園において、国際的に種の保存に貢献するという目標に見合った、大人の知識欲を満足させる中身が濃いプログラム、特に経営資源とすべく戦略的に検討された教育プログラムがここ数年の指摘にも反して皆無であることは非常に残念です。

維持管理全般では、市民の安全確保に関わる改修や、動物福祉向上に関わる寄附等を利用した改修の実施を高く評価します。動物逸走対策等で緊急を要する改修工事については、横浜市からの予算補償を活用し、協会発注で年度内に対応することも可能なため、必要に応じて柔軟な対応をできる施設担当の在り方についての検討を求めます。

マーケティング戦略の展開において、非来園者調査を初めて行ったことを評価します。しかし、調査後の分析が不十分であり、マーケティング戦略への反映を検討できる意識と体制に課題があります。また、クラウドファンディングを行うにあたっては、ドナーピラミッドを構築して友の会など支援者の増加につなげるファンドレイジングの基本を意識した改善を求めます。

人材マネジメントの取組では、ファンドレイジング研修などを行って、運営・広報部門の人材育成を試みている点は評価できます。しかし、研修だけで終わっており、実際にマネジメントに反映されていないため、学んだことを柔軟に実践できる風通しの良い組織作りなどの改善を求めます。

動物園マネジメントの取組において、遺贈など寄付金窓口のホームページを見やすく改善した点は評価できます。一方で、入園者数の現状分析などは不十分ですので、今後は入園者の構成などを分析して来園者サービスや動物園運営に反映させるとともに、事業評価の際に提示してください。

次期指定管理期間に向けて、より高いレベルで動物園管理業務を行い、来園者に対しては引き続き安心・安全な動物園運営の提供を継続していくことを期待します。

7 委員会所見

1 飼育現場での取組

- ・動物福祉を意識したハズバンダリートレーニングの取組みや繁殖実績については評価する。(3園)
- ・3動物園の飼育現場が連携して、キリンやレッサーパンダなど特定の動物の普及イベントを開催するなど動物園が3つある点を活かした取組みがされている点を評価する。

2 保全に貢献する取組

- ・3動物園とも、環境教育イベントでのガイドに域内・域外で活動するNGO・保全団体と連携が活発であり、連携団体の物販や市民からの募金の寄付を通じて間接的に域内保全にも貢献を強化している点を評価する。(3園)
- ・ツシマヤマネコなど環境省・日動水の域外保全計画へ参画と取組みを評価する。(3園)
- ・アマミトゲネズミ、ツチガエル、ミゾゴイ、希少ラン類等地域の動植物を保全する取組と環境省の認定希少種保全動植物園に認定された点を高く評価する。(金沢)

※よこはま動物園においては、コアなファンの知識欲を満たすような連続講座などを経営資源の一つとして戦略的な目標を持って開発・実施されることを期待する。

3 調査・研究などに対する取組

- ・3動物園ともに、堅実に新規、継続の研究テーマに取り組んでいるが、特に野毛山動物園では、新規の大学との共同研究が多く、高く評価するとともに継続と今後の進展を期待する。(野毛山)
- ・ツシマヤマネコの人工授精による古賀賞の受賞を評価する。

4 マーケティング戦略の展開

- ・非来園者調査を初めて行った点を評価する。

※調査結果を分析し、マーケティング戦略への反映を検討ください。

※クラウドファンディングを行っても、支援者の分析などドナーピラミッドを構築するための活用ができていない。ファンドレイジングの基本なので、アニマルペアレントや友の会などの支援者育成につながるように改善してください。

5 人材マネジメントの取組

- ・飼育技術者の人材育成について、研修やOJTによる技術継承だけでなく、ミゾゴイの野生復帰事業のための佐渡出張など、技術・知識の集積に努めている点や、定期的に係長昇任を確保する等の点を評価する。
- ・マーケティング研修及びファンドレイジング研修を行った点を評価する。

※研修を受講するだけでなく、学んだことを柔軟に実践できる風通しの良い組織作りや財団法人の強みを活かした一層の工夫を期待する。

6 動物園マネジメントの取組

- ・遺贈など寄附金窓口のホームページを見やすく改善した点を評価する。

※入園者の構成(利用者層、リピーター割合など)や子ども人口の推移を踏まえた入園者数の分析を行い、来園者サービスや動物園運営に反映させることを期待する。